

文芸 さくらがわ

俳句

【天和俳句愛好会】

山茶花の色にみとれてバスを待つ

鈴木ふみい

誘ひ合ふ児等の声澄む寒の路地

古橋 益子

自轉車で走る小道も日脚伸ぶ

安達 幸子

五感まだほぐれぬままに春立ちぬ

鈴木 つぎ

寒明けや見舞ふ言葉を選びつつ

岩瀬 のぶ子

早春の野に出て清し風と日と

田中 はつひ

里山は師走となりて彩増せり

皆川 和子

アルバムを山ほど重ね炬燵の座

鈴木 登美子

足湯にて朝の挨拶落葉散る

田代 てい子

被災地の復興祈り初日の出

代田 とし

【一般投稿】

金箔の如き柚子添へ雑煮椀

木下 善信

短歌

【花の室 木崎集】

窓達は陽を浴びゆつくり睫毛閉じ大欠神する人なき静寂

塚田 沙玲

線香の煙の道はゆらゆらと壁を伝いて笑顔の母に

大久保 まさ子

読みかけの本にはさみし菜増え気力失せたる我を戒む

櫻井 ハル子

団子虫つまみてはしやし腕白も二十歳となりて物理を学ぶ

塩谷 明子

ブルーシートの屋根ぼつぼつと消えるたび被災ストレスうすうすうすうすうすうすうす

鈴木 とみ

夜の更けの騒ぎの人の声聴きたくてガラス戸あければ狸が寄ってくる

塚本 幸子

背なにて眠る幼のぬくもりのほつこり伝わる大地震のあと

西岡 和子

一握の生業すらもさらひゆく原産生みたる親は何処に

野村 幸男

聞き慣れぬセシウム、ヨウ素、ベクレルの言葉聞きつつ青菜を湯掻く

深谷 快子

【岩瀬短歌会】

留守の間はまかせよと張るしろがねの女郎蜘蛛の網われを見送る

小林 美瑛子

晴れわたる夜空を今宵十五夜の月肅々とのぼりて来たり

小林 むら

夕暮れの茜の空に百日紅情念のごとく色さして落つ

岡野 禮子

わが町の新米検査安全との防災無縁に心安らぐ

石田 守子

しばらくは身を舐めいしに外猫の心そぞろかつと走り去る

五月女 静江

ジャックと豆の木の豌豆思わせて朝顔の蔓は空へとのぼる

渡辺 しな子

よかつたね結婚していてと言いながら夫は背に湿布を貼りぬ

浜野和 操

月光の清かに吾をつつむとも晴れぬ悩みのひとつ事あり

広沢 日出子

【岩瀬秋歌会】
呼ぶ声はついに届かず君は逝く今宵三十七日うるむ月光

安達 悦子

何ごとも今宵は忘れて眠れよと鬼怒の清流耳にやさしき

安達 すみ子

蔓蕎麦の枯れ草の中薄き紅色隠れ信徒のごとく地に張る

大関 節子

難多き年は流れる宵の空来るとしの幸星に祈りぬ

角田 玉枝

秋陽受け雅に煌めく金閣寺池の水面にその姿浮かべ

坪井 ゆき子

八十路こえ駅伝サッカーの応援に孫等と過ごす初春の一時

長谷川 玲子

枯葉散り秋深くなりゆく庭に玉の露置く今朝の初霜

石川 喜代

広報 さくらがわ 有料広告募集!

- サイズ 1 枠 29mm×85mm、2 枠 29mm×172mm
- 掲載料 1 枠 10,000 円、2 枠 20,000 円 (月額) ※連続掲載で割引制度があります。
- 問合せ先 秘書広報課 ☎58-5111-75-3111、内線1268

広報 さくらがわ 有料広告募集!

- サイズ 1 枠 29mm×85mm、2 枠 29mm×172mm
- 掲載料 1 枠 10,000 円、2 枠 20,000 円 (月額) ※連続掲載で割引制度があります。
- 問合せ先 秘書広報課 ☎58-5111-75-3111、内線1268